

医療安全全国共同行動 第1回全国フォーラム 開会の辞
高久史麿(医療安全全国共同行動推進会議議長)

2008年11月24日(月・祝)

おはようございます。医療安全全国共同行動推進会議の議長を務めております高久でございます。本日は休みの日に朝からお集まりいただきまして、ありがとうございました。

この医療安全全国共同行動は今年の5月17日に、東京の経団連会館でキックオフ・フォーラムを開催いたしました。その後、7月、8月、9月と西宮、福岡、仙台の各地域でキックオフ・フォーラムを開催し、今回が第一回の全国フォーラムということになります。

この共同行動は医療の質・安全学会、日本病院団体協議会、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会、日本臨床工学技士会が呼びかけ団体となって行動を始めたわけですが、スタートしてから半年が経ちました。

おかげさまで、各地区に非常に熱心なボランティアの方がおられまして、11月初め現在305の病院が登録し、この運動に参画しています。今後この第1回全国フォーラムを契機として、さらに参加していただける病院が増えるものと期待をしています。

本日は、引き続きまして、この共同行動のモデルであります、アメリカの「10万人の命を救え」キャンペーンの運動の中心となっておられるヘンリー・フォード病院のW.A.コンウェイ博士のお話をおうかがいします。その後、各分科会で、今回の8つの行動目標について、現在の進行状況などをお話しいたします。

あらためまして、この第一回の全国フォーラムにお集まりいただいたこと、さらに、今後この運動に対しましてご参加の皆様方が積極的に展開をしていただけることを期待申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。